

ありがとうの数だけこどもの未来が豊かになる

地域通貨「まーぶ」

<地域通貨「まーぶ」とは…>

地域通貨「まーぶ」は、箕面市で流通しているこどもも大人も使える地域通貨です。「まなぶ」と「あそぶ」を掛け合わせて考えられた「まーぶ」は、どんな状況にあるこどもでも自分の力で「だれかのためになること」「自分の未来のためになること」をすれば稼ぐことができることが特徴です。100 まーぶ=100円として、お店で使うことはもちろん貯めることで、自分の夢をかなえることもできます。

こどもたちが生まれた環境に左右されない人生を歩めるように

いま生まれてくるこどもたちは、生まれてきたときからすでに格差の中にあり、将来の選択肢にもとても差がある状態です。このような状態にあきらめ感を抱かせず、自分の力や周りの力を信じることができるようにすることが、「まーぶ」の果たすべき役割です。

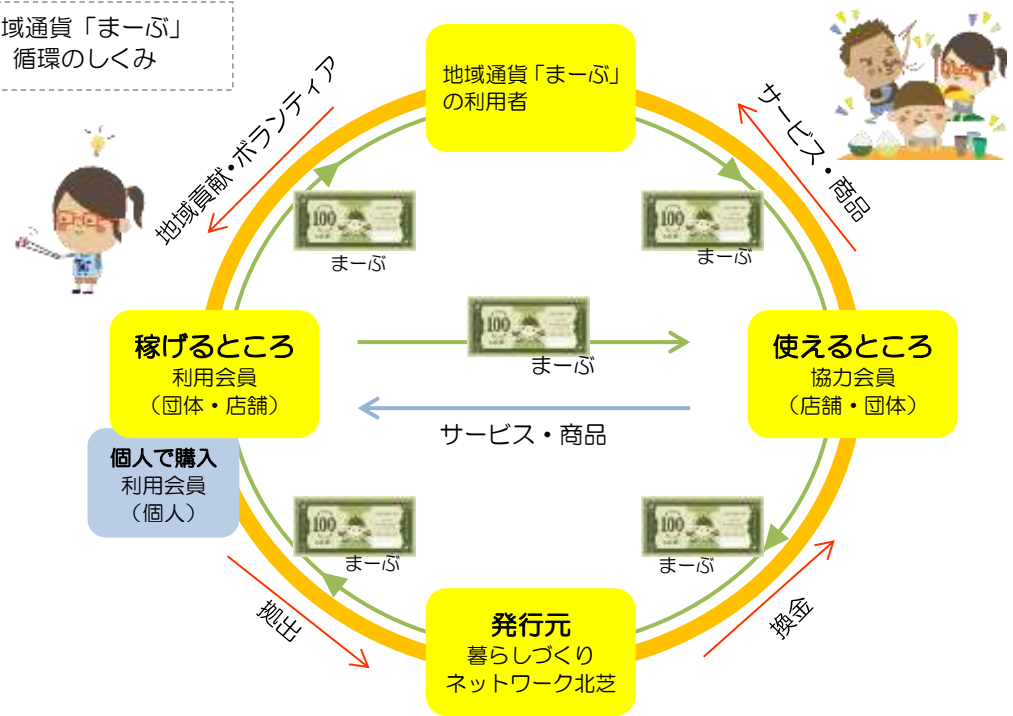
こどもたち一人ひとりが、社会の中で主体的に生きる力を獲得していく

「まーぶ」をかせるために、こどもたちはコミュニティの中のだれかのためになることに関わっていきます。そこで生まれるのが、コミュニケーションであり、社会的な“つながり”です。「まーぶ」を稼ぐ/使うという行為の中で、こどものときから、家や学校、友だち以外の“つながり”をたくさんつくる経験を得て、社会の中で生きていく力を身につけていきます。

こどもたちがまちを元気にする

こどもたちは稼ぐという行為の中で、誰かの困りごとやまちの困りごとに出会い、それを解決するプロセスに関わります。こどもたち自身が、まちづくりの担い手になることで、まちの活性化につながるとともに、未来のまちの担い手としても育っていくことにつながっています。

地域通貨「まーぶ」
循環のしくみ



「まーぶ」を手に入れるには

■「稼げる場所」で地域貢献活動やボランティア活動をおこない、その対価として手に入れる。

(例)

- らいとぴあ21のまーぶしごと(地域貢献活動)求人から自分ができることを探す
- まーぶハローワークイベントでおしごと体験に参加する

■販売場所にて、同額の円と交換し手に入れる。

「まーぶ」を使うには

■「使える場所(現在、110店舗・団体)」で、商品やサービスを購入する対価として使う。

■誰かに何かしてもらったときのお礼の気持ちとして、「ありがとう」といっしょに渡す。

まーぶハローワークとは…

こどもたちが様々なおしごとの体験ができるイベント。現在、みのおキューズモールとの共催で、実際の店舗のチラシを配ったり、声出し宣伝をしたりしています。



「まーぶ」のこれまでの経過（紙幣デザインの変遷とともに）

2011年夏



～2014.3.23

こども通貨「まーぶ」流通スタート

当初は、こどもの貧困課題の現状から、こどもだけ稼げる・使える通貨として、らいとびあ21を中心に流通（円との兌換なし）

- ・こども夢コンテストにて「逃走中」や「気球に乗りたい」などを実施
- ・スタディーツアーを実施

2014年3月

2014年4月



～2015.3.31

第1期「まーぶ」流通終了

リニューアル「まーぶ」の流通実験スタート

第1期（2014年4月～9月）、第2期（2014年10月～2015年3月）にかけて流通実験

- ・こどもたちがおしごと体験をしてまーぶを稼げる「まーぶハローワーク」をみのおキューズモールや市内イベントを中心に開催
- ・まーぶ夢コンテストの実施

2015年春



2015.4～（予定）

無期限の地域通貨「まーぶ」流通開始予定

「使えるところ」の店舗数拡大、「稼げるところ」の全市展開予定



子どもたちが、お手伝いや人のためになることをすることで、「まーぶ」を稼ぐ。働くことの苦勞と、人から感謝される経験を体験することで、子どもたち自身の手で自分自身の未来の選択肢を広げて欲しい。またサービスマーケティング（社会貢献学習）としても有効である。貧困により学ぶ意欲や自己肯定感が低くなりがちな子どもたちが「自分の叶えたいことを叶えられる自己実現のツール」として、貧困の連鎖を防止する意味でも、非常に貴重な実践である。

（大阪教育大学 准教授 新崎国広氏からのコメント）

小学生のAさんは、家庭の経済的困窮から夏休みのお昼ごはんを作ってもらえず、大人の前では「もう食べた」「いらない」と言っている状態だった。そこで、らいとびあ21で取り組まれているこどもであれば100まーぶでお昼ごはんが食べられる「ぴあぴあ食堂」を紹介すると、自ら稼いだまーぶで友だちとお昼ごはんを食べるようになった。また、保護者がまーぶを購入し、お昼ごはん代としてAさんに渡すようにもなり、Aさんの精神状態も安定した。

※この事例は、事実を元に個人が特定されないよう再構成しています。

地域通貨「まーぶ」にまつわる事例

ひきこもり経験があるBさんは、給料をもらって働くことに抵抗があり、なかなか次の一歩が踏み出せなかった。そんな中、福祉団体のチラシを折るという軽作業ボランティアに参加し、謝礼としてまーぶを受け取った。円よりもまーぶをもらう方が気が楽で、その後も謝礼としてまーぶをもらえるボランティア活動に参加している。稼いだまーぶを使うのはもったいなく感じていると親には話しているそうだ。



今後の展望

- ・箕面の中で「まーぶ」の認知度を上げ、官民学連携の事業展開をするとともに、こどもを社会で育てる認識を広げていきます。
- ・「こどもまーぶ基金（仮称）」を設置し、協力会員の中から換金額の5%を寄附できる仕組みを広げるとともに、市民からの寄附を募り、こどもの社会体験・参画、夢を叶えるために助成できるようにします。

＜問い合わせ先・販売換金所＞

（特活）暮らしづくりネットワーク北芝

大阪府箕面市萱野 2-11-4 芝樂 2F

TEL 072-720-6630

E-mail info@ma-bu.org

まーぶ WEB <http://www.ma-bu.org/>

